

むさしの TALK

『あまちゃん』の次は、音楽を通じた 新しい盆踊りの姿をお見せします!

NHKの朝の連続テレビ小説『あまちゃん』で全ての楽曲を手掛けた大友良英さん。
2014年は盆踊りで新しい音楽の形を伝えます。

大友良英さん



吉祥寺周辺に住んで約30年。もはや地元だと思っていますが、故郷はやはり小学3年生から高校を卒業するまで育った福島でしょうか。福島のことは「好きだけど、嫌い」という、地方出身の人だったら分かってもらえると思う、そんな気持ちもずっと抱えています。

震災が起こった時、「何かしなければいけない」という焦りの中で『プロジェクトFUKUSHIMA』というものを立ち上げましたが、自分に何ができるか戸惑っていました。そんな中で、音楽を担当した『あまちゃん』に出会いました。脚本を読んで最初に感じたのは「これは毎朝15分間のお祭りのような話」だということ。大人数の編成でシンプルなメロディーラインをにぎやかに演奏したのが、あのオープニングテーマです。老若男女誰もが楽しめて、土地に縛られない「祭り」のやり方があるなと気付かされました。

テレビ番組や映画などのバックに流れる伴奏音楽を手掛けてきたから

大友良英（おおともよしひで）
1959年生まれ。音楽家。ノイズミュージックやフリージャズの作曲・演奏家として国内はもとより海外でも活躍しながら、映画やテレビドラマの音楽を担当。近年は、音楽ワークショップを開催するなど、音楽を介したプロジェクトを多方面でプロデュースしている。

PRESENT

今回取材した、大友良英さんのサイン入りCD「CORE ANODE」を抽選で3名様にプレゼント! 詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



かもしれませんが、いつの頃からか「音楽は主役じゃない方がよい」と感じています。縁日やお祭りのように楽しい場があつて、そこに「音楽もあつて面白かつた」というポジションが、今の自分にはとても心地よく思っています。世代を越えて愛された『あまちゃん』のように、世代を越えたダンスミュージック＝盆踊りになるんじゃないかと。今年は全国各地で演奏を通じた新しい祭りの可能性を試しています。

吉祥寺にある「GOK SOUND」というこの音楽スタジオは、昔からよく使わせてもらっていて、ここから生まれた音楽は数えきれません。これからもずっと吉祥寺のまちとともに生きていきたいですね。

